

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

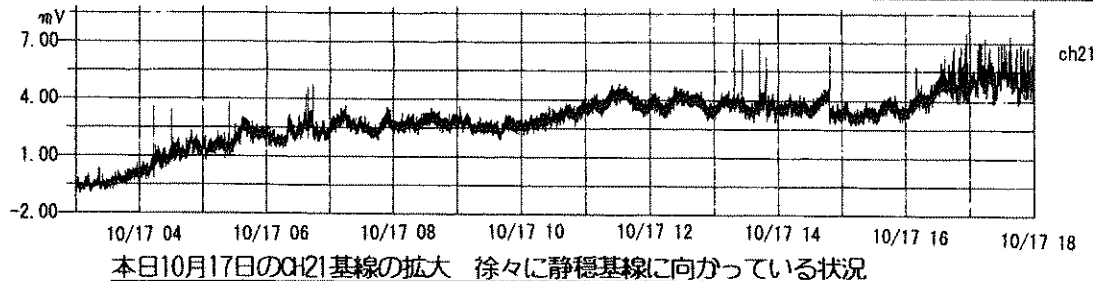
No.1778 長期継続前兆 前兆静穏傾向 10月19日発生の可能性否定できない

10月18日昼前にCH21静穏化の場合→10月19日発生の可能性有 (10/18夜迄に終息しない場合→11/2±の可能性)

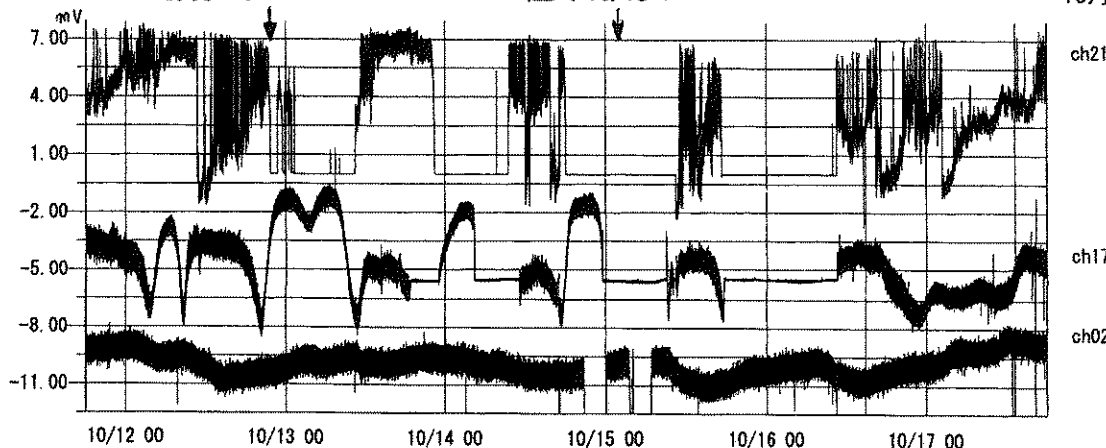
前情報で、複数観測装置に前兆が顕著に出現したことを報告致しました。

その前兆について、様々な可能性について検討し、2つの可能性について報告致しました。

その中で、可能性②とした11月02日±の可能性については、右波形のとおり、本日は極めて静穏な基線を記録していることから、月末迄前兆が継続することは、少々考えにくいとの見解を持ちます。



初現 10/12.9 → 極大 10/15.1 → 10月19日±



可能性①については、直前特異の可能性も考えましたが、第18ステージが示した10/16±に対し、10/15に極大が出現したと認識する方が調和する様に見えます。その10/15.1極大について、本日の各観測装置の基線が静穏基線であること、CH21も静穏化傾向となってきたことから、上図に記したとおり、10/12.9初現 → 10/15.1極大 (Tfap: Tmap=20:13) → 10/19と云う関係の出現である可能性も十分考えられます。

この認識が仮に正しい場合は、Tpp(静穏期間)は、ほぼ1日と計算されますので、19日午前09時±発生の可能性と仮定しますと、現在主として継続中のCH21をはじめ、CH17, CH2の前兆が断続的に再出現しても、明日の10月18日午前09時前後頃には静穏化する可能性が示唆されることとなります。

本日10月17日夕刻17時現在、前兆が弱い状態でも継続中であることから、明日18日発生の可能性は考えにくいこととなります。

明日18日昼迄に、前兆が終息し、静穏基線を記録した場合は、19日発生の可能性が示唆されることとなります。仮に明日18日の夜時点で前兆が継続していた場合は、可能性②の11月02日±の可能性が示唆されることとなります。

- ◆推定領域：右図点線領域内付近＝大枠推定領域
太線領域内付近＝可能性考え易い推定領域
(火山帯近傍地殻地震前兆が関連がある場合には、
ある程度火山帯に近い領域の可能性が示唆される)
(白山・御岳・乗鞍等火山周辺領域の可能性も有)

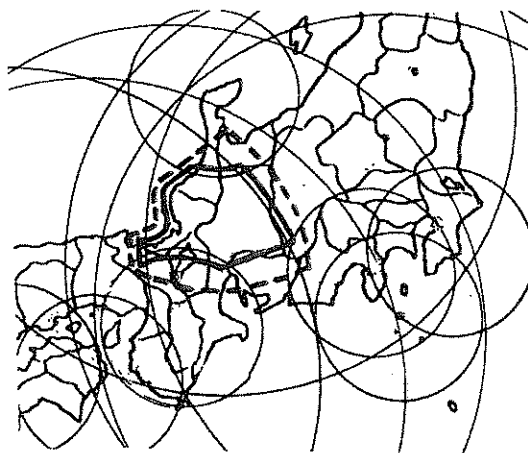
◆推定規模：M7.8 ± 0.5

◆推定時期：可能性① 10月19日 (誤差20日迄)
(※10/18 夕刻段階で前兆継続の場合は、11/2±3
の可能性有。その場合は今後を観測し続報予定)

◇推定地震種：震源の深さ30km以浅の陸域
日本列島地殻地震

◇推定発生時刻：午前9時±1 (又は午後6時±3)

© Copyright 2016 YSBO八ヶ岳南麓天文台



※他：別の巨大地震が推定される前兆は観測されておりません。